

令和3年3月24日

群馬県知事 山本 一太 様

公明党群馬県本部代表 福重 隆浩
女性局長 小野 聡子

コロナ禍における女性の負担軽減に関する緊急要望

3月1日から8日は、女性の健康週間であり、3月8日は国際女性デーでもありました。

今、世界各国で女性の月経に関する「生理の貧困」が問題となっています。「生理の貧困」とは、生理用品を買うお金がない、また、利用できない、利用しにくい環境にある事を指し、発展途上国のみならず格差が広がっている先進国においても問題になっています。この「生理の貧困」解消のために、例えばイギリスでは全国の小・中・高校で生理用品が無償で提供されていると報道されています。また、フランス、ニュージーランド、韓国なども同様の動きがあります。

この問題は日本でも無関係ではなく、先日、任意団体である「#みんなの生理」が行ったオンラインアンケート調査によると、5人に1人の若者が金銭的な理由で生理用品を買うのに苦労した、他の物で代用している等との結果が出ています。また、貧困で購入できないだけでなく、ネグレクトにより親等から生理用品を買ってもらえない子どもたちがいるとの指摘もあります。

昨日3月23日の閣議決定では、孤独・孤立で不安を抱える女性を支援するため「地域女性活躍推進交付金」の拡充で13億5千万円が計上され、経済的な理由で生理用品が買えない「生理の貧困」対策として、交付金を活用した生理用品の提供も可能となりました。

群馬県において、誰一人取り残さない社会を実現するために、1日も早く、このような女性の負担軽減に取り組んで頂くよう、以下要望します。

記

1. 防災備蓄品の生理用品を必要な方に配布して下さい。また、配布においてはネット申請や郵送でも可能として下さい。
2. 防災備蓄品等の食料もあわせて生活困窮者に配布して下さい。
3. 県内の小・中・高等学校及び大学や公共施設等の個室トイレで、生理用品を無償で提供して下さい。
4. 「生理の貧困」とどまらず、表面化しにくいコロナ禍における女性特有の課題について、関係機関が連携し実態把握に努め、寄り添う相談支援体制を構築して下さい。

以上